



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年8月10日(日) 9:30~12:00(小雨)

参加者 一般:3名

指導員:1名

## テーマ キツネノカミソリとコヒガンバナ

朝から雨で、欠席の連絡をくれた方もみえましたが、開始時点では小降りになり、この程度なら猛暑よりはましと負け惜しみを言いつつ林の中のコースを回りました。

この日一番のお目当ては大野極楽寺公園に生えているヒガンバナ科のキツネノカミソリです。昨年の観察会では花は終わりがけでしたが、気温が高い日が続いたためか、今年は開花が遅れ、20株程がちょうど満開状態でした。下見で花の状況を確認し、常連のメンバーには見頃だよと事前にメールでお知らせしておきました。近い中間のオオキツネノカミソリは花被が長く、反り返ること、雄蕊が長く花被の外まで突き出ることで見分けられるとのことでした。ここのキツネノカミソリの花被は5~6cmでしたが、雄蕊は花被と同じくらいの長さで、花被の外に出ているものもありました。

その近くと138タワーパークのもくもくパラダイスの一画ではウバユリも花をつけた株が多数見られ、既に花が終わった個体もありました。

過去には8月の観察会で咲いていたこともあるコヒガンバナを探しました。ヒガンバナの仲間は地中の温度が下がってくると花茎を伸ばすと言われていますが、猛暑のせい今年はまだ花茎が地上に出ていませんでした。

その他、公園内の草原では、7月の草刈り後に伸びたカワラナデシコやツリガネニンジンが花をつけていました。これらは草刈り直後でなければ毎年咲いている花です。

セミはアブラゼミとクマゼミの鳴声が響いていました。ニイニゼミも鳴いているのですが、アブラゼミの大合唱にかき消され、聞き取れませんでした。林の中でセミの抜け殻を探しましたが、見つかったものは全てアブラゼミのものでした。

シンジュの幹にはシタバニハゴロモがたくさん止まっていた。先月は幼虫が見られましたが、今回は成虫ばかりでした。下見の時には、木の枝から細かい水滴(おしっこ)が落ちていましたが、今回は雨と区別できませんでした。それにしても急激に増えていることに驚かされます。

(報告:齋竹)



(ウマノスズクサの花を観察)

### <その他観察できたもの>

鳥:キジバト、ヒヨドリ、メジロ、ハシボソガラス、コゲラ(声)、シジュウカラ(声)

虫:コクワガタ、ナミテントウ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、キタキチョウ、サトキマダラヒカゲ、チャバネセセリ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ショウリョウバッタ、キマダラカメムシ

花:イワダレソウ、メリケンムグラ、ブタナ、ヤブミョウガ、ツククサ、ミソハギ、キキョウ、オミナエシ、ウマノスズクサ、アレチハナガサ、ダイコンソウ、ヤブラン、サルスベリ



キツネノカミソリは満開



バユリも咲いた



草刈り後のカワラナデシコ



早咲きのツリガネニンジン